

フィードバック

小嶋 祥三

掃除はわたしが受け持っている家事だ。もともと掃除は嫌いでなかったのですが、毎日問題なくこなしている。使っている掃除機には、ごみを吸い込むと緑の発光ダイオードが赤に変わる、一種のフィードバック機能がついている。部屋がきれいに掃除されたかは、この色光の変化に頼ることになる。このフィードバックがないと、本当にきれいになったか分からない。家にはもう一台掃除機があるが、こちらにはフィードバック機能はついていない。それゆえ、部屋をきれいにしたつもりだが、きれいになったかはどうも自信がない。このホームページの『予測する脳』では、予測とフィードバック（予測誤差）の重要性について述べた。それは、一般性を持ち、この例のように、日常生活にも当然当てはまる。

省エネは日本の産業から家庭まであらゆるところで追求されている。東日本大震災で電力の供給がひっ迫し、その傾向が一層強まった。その昔、霊長類研究所で電気の節約が問題になった。研究活動を低下させてはいけないうし、スローガンに掲げるだけでは効果がないかもしれない。玄関ホールのエレベータの脇に、毎月の電力使用量を掲示したが、わたしは研究所の単位（部屋や部門など、いろいろな単位が考えられるが）ごとに電気使用量が分かるメータがあればよいと思った。個別的なフィードバックである。自分たちの節電の効果が直ぐにフィードバックされれば、節電行動の励み（強化）になる。

同じことは家庭でも感じる。家事を手伝うようになると、それまで妻がやっていたやり方に戸惑うことがある。たとえば、掃除機は電源を切らず、最後までやる方が電気の使用量の点から好ましいという。確かに、電気器具は起動時に電気をくうようだ。わたしは妻のやり方に従い、波風を立てないようにしている。ただ、一回止めるとどの程度電力を消費し、それがどの程度の電気料金になるのか、知っておいた方がいいと思う。そうでないと、原理主義的に節電、節電となり、息苦しくなってしまうから。

などと考えていたが、多分、小型の電力メータがあるに違いないと思った。ネットで調べると確かにある。ただ、一台数万円とかなり高価だった。もう少し安ければ、フィードバックの重要性から考えて、普及するのではないだろうか。来る電力自由化にあわせて、スマート・メータなるものがあるようだ。パソコンやスマホとつなぎ、使用電力の把握が簡単になるかもしれない。好ましいことである（ただ、スマート・メータ関連の詐欺が横行しているらしい。用心が必要だ）。

話はガラリと変わって、父が話していたことを思い出した。父は信州・小布施から旧制の中学校（五中：小石川高校）に通うため東京に出てきた。裕福になった村の出身者が援助してくれたようだ。五中は新設校で、まだ教育のやり方が確立していなかったのだろうか。テストをしても答案を返してくれなかったそうだ。父たちは、どう間違えたか分からないので、答案を返してほしいと要望したという。この要望は受け入れられ、父たちは満足したようだった。このように、フィードバックの重要性は一般性をもっているのだ。